

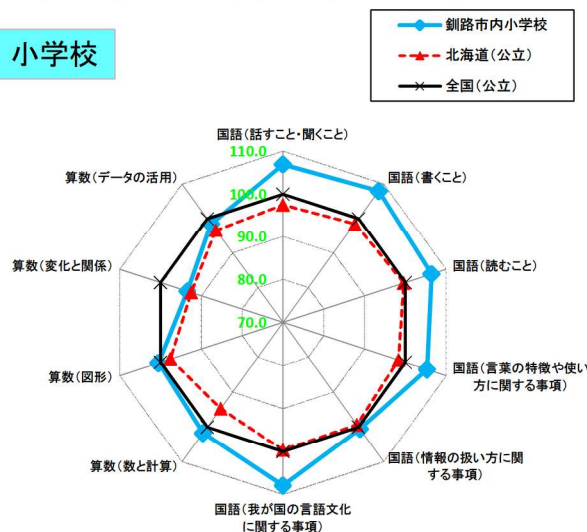
■釧路市内の状況及び学力向上策（小学校数:26校、児童数:901人）（中学校数:15校、生徒数:933人）

【教科全体の状況】

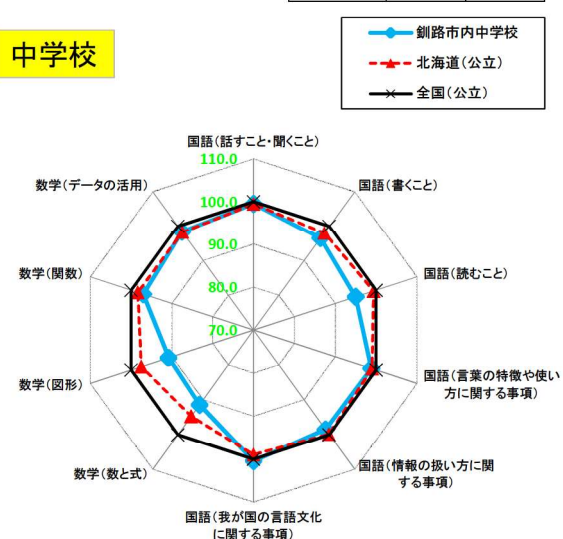
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	57
算数・数学	63	50

小学校

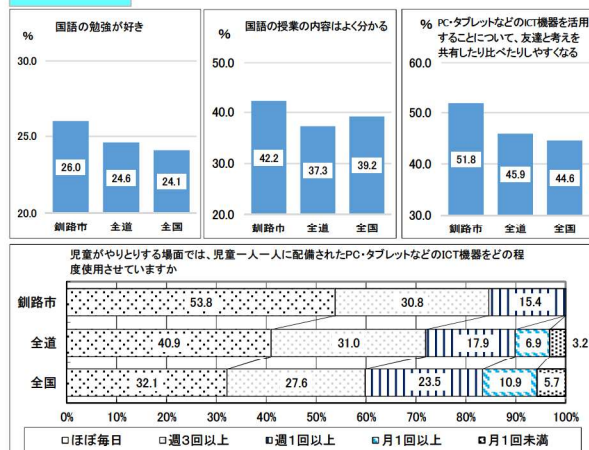


中学校

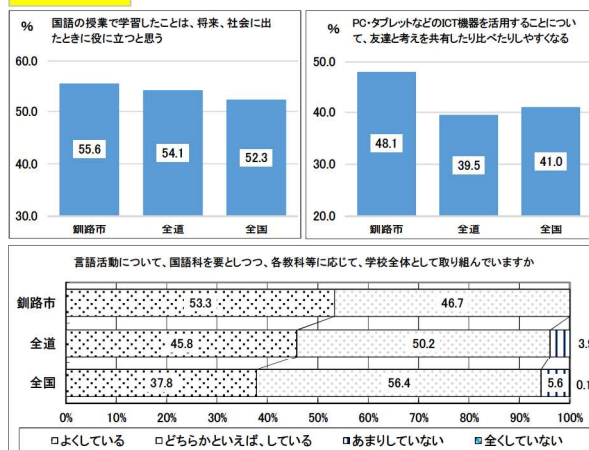


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

市で「目指す授業の姿」を示したことにより、国語の勉強が好き、国語の授業がよく分かると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域3事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末の活用に係る研修会を継続的に実施し、児童がやりとりする場面等での実践事例や教材等の共有化を図ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

市で「目指す授業の姿」を示し、多くの学校で、言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等に応じて学校全体で取り組んだことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末の活用に係る研修会を継続的に実施し、生徒同士がやりとりする場面等での実践事例や教材等の共有化を図ったことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【釧路市の学力向上策】

- ◎ 釧路市標準学力検査の結果分析に基づく検証改善サイクルの確立（調査結果を踏まえた学力向上プランに係る協議及び見直し）
- ◎ 教員の資質能力の向上に係る研修会等の実施（学力向上セミナー、釧路教育研究センター研修講座、初任段階教員の授業力向上研修等）
- ◎ 授業力向上事業の実施（授業マイスターの認定と授業マイスターによる授業公開及び初任段階教員を対象としたジョブシャドー研修、授業動画交流サイトの開設、学力向上推進委員会の設置等）
- ◎ 一次訪問の実施（すべての教員の授業参観と指導）

【Webページ】

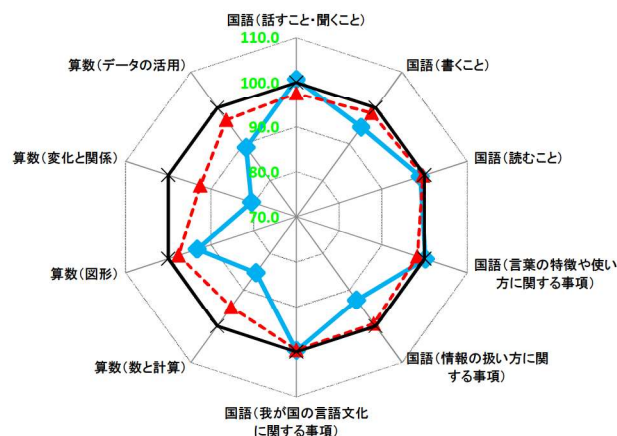


■釧路町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:129人）（中学校数:4校、生徒数:129人）

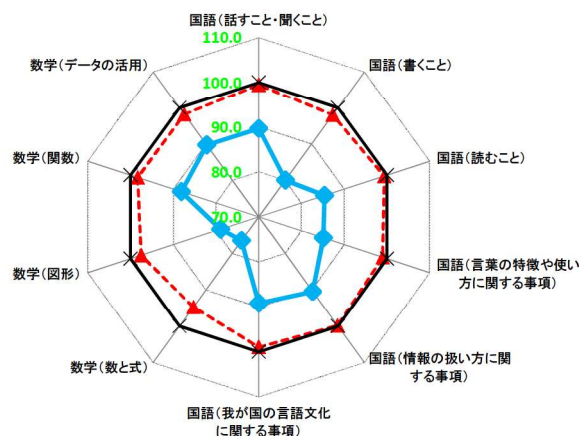
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

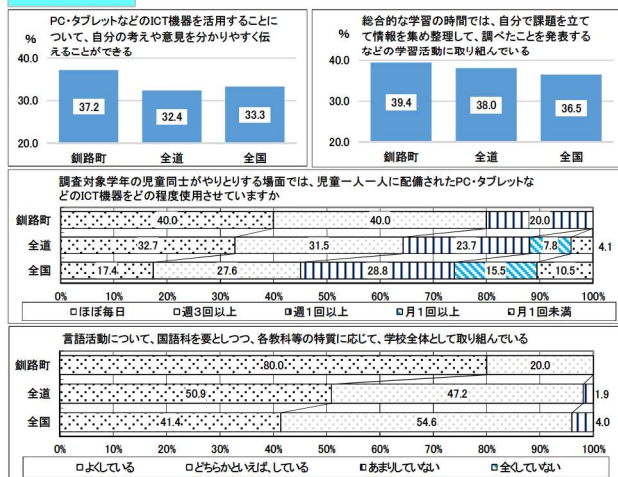


中学校

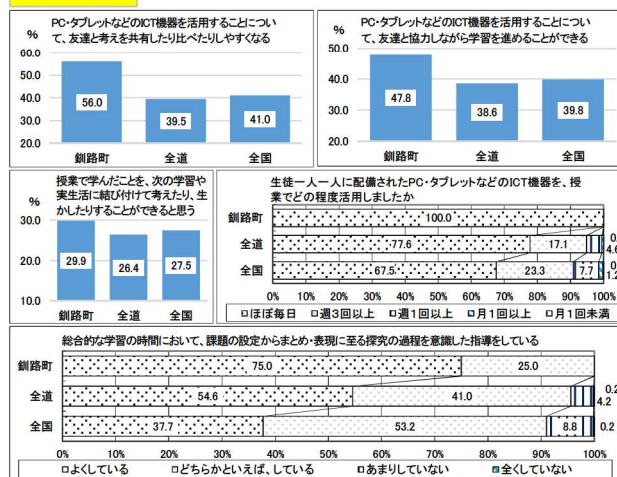


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、言語活動について、国語科を要しつつ、各教科の特質に応じて、学校全体で取り組むとともに、児童同士がやりとりする場面において、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上活用したことにより、PCやタブレットを活用することについて、自分の考えを分かりやすく伝えることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

地域学校協働本部と連携を図った活動を総合的な学習等における探究的な学びに位置付けてキャリア教育の充実を図ったことにより、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んだと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、PC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPCやタブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたり、協力したりしながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導を行ったことにより、授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【釧路町の学力向上策】

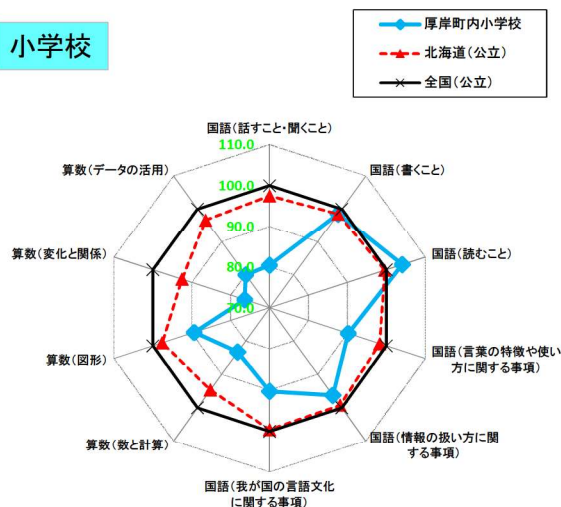
- ◎ 小中連携の強化に向けた合同研修会の場として「地域連携部会」と「教務担当者交流会」の実施（年間各3回ずつ）
- ◎ 1人1台端末等の効果的な活用を図るための町研ICT特別委員会と町教委との共催によるICT活用研修会の実施
- ◎ 「学力・学習状況改善プラン」（年間3回）による、検証改善サイクルに基づく各校の取組の推進
- ◎ 「家庭学習の手引き」の配付、「生活リズムチェックシート」（年間2回）及び「メディアコントロール・プロジェクト」による望ましい学習・生活習慣の定着に向けた取組の推進

■厚岸町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:43人）（中学校数:3校、生徒数:45人）

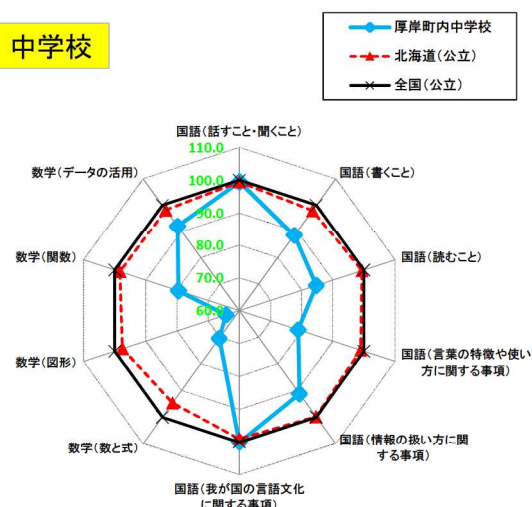
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものと（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

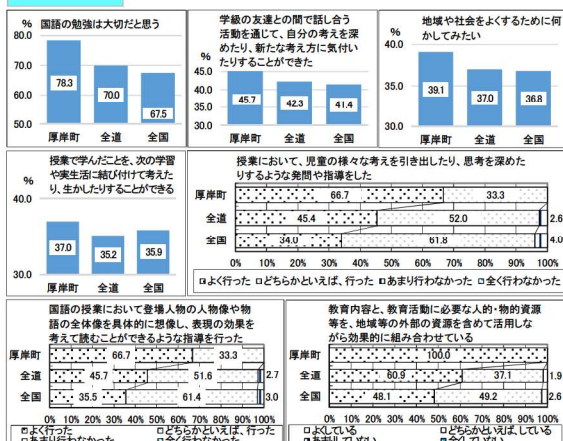


中学校

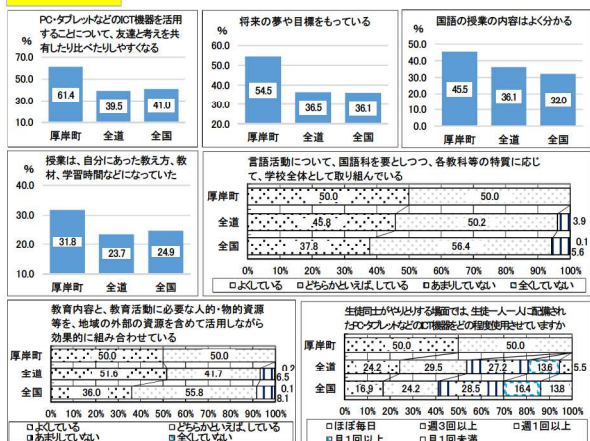


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

授業において、児童の様々な考え方を引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導及び登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果をjえて読むことができるよう指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思う、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた、回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「読むこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

指導計画の作成にあたり、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせたことにより、授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができた、回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

授業において、言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体で取り組むとともに、生徒同士がやりとりする場面で、生徒一人一人に配慮されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上使用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合と、国語の授業の内容はよく分かれると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

指導計画の作成にあたり、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせたことにより、授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたと回答した生徒の割合と、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【厚岸町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒が課題を自分事として捉え、主体的に取り組む授業づくりの推進
- ◎ 児童生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす効果的なICT機器の活用を図るための教師の指導力向上及び授業改善の推進
- ◎ 家庭と連携した児童生徒の生活習慣の改善及び地域と協働した教育活動の実施

【Webページ】

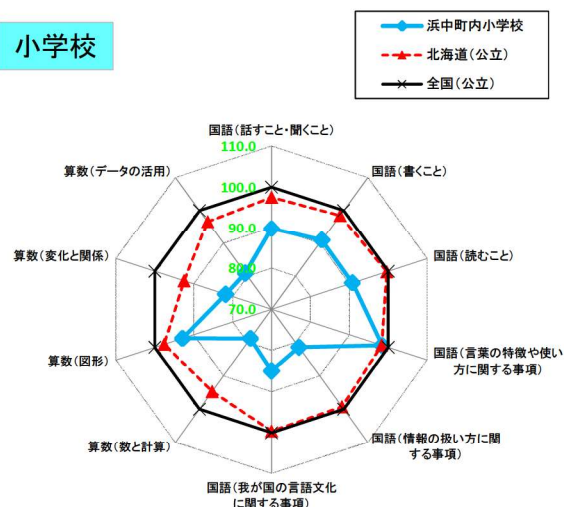


■ 浜中町内の状況及び学力向上策（小学校数：4校、児童数：41人）（中学校数：4校、生徒数：35人）

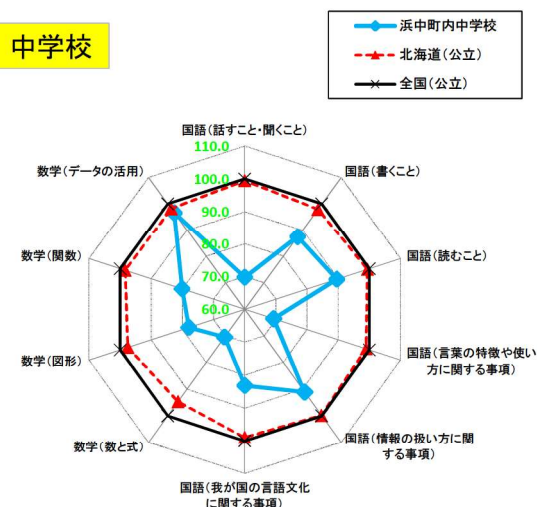
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

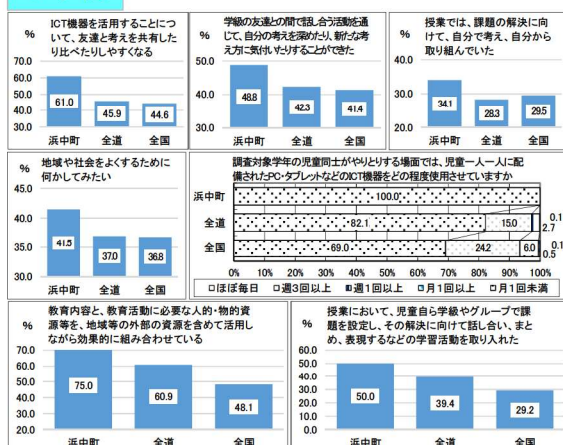


中学校

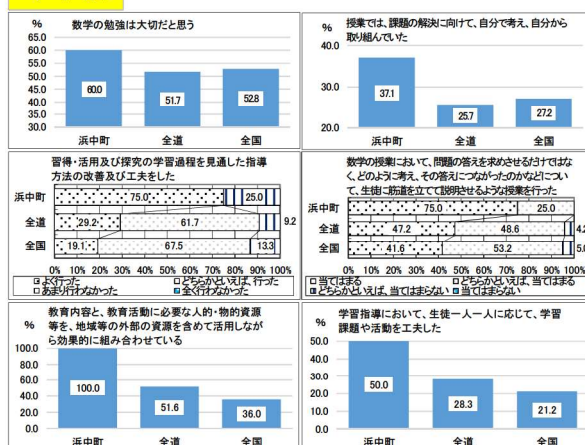


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

学習支援アプリを活用したオンラインによる双方向型授業を取り入れるなど、児童一人一人に配慮されたICT機器をほぼ毎日活用したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができた。ICT機器を活用することについて、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

指導計画の作成にあたり、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせるとともに、授業において児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる、地域や社会をよくするために何かしてみたいと回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行うとともに、数学において、問題の答えを求めさせるだけでなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させる授業を行ったことにより、数学の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

指導計画の作成にあたり、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせるとともに、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【浜中町の学力向上策】

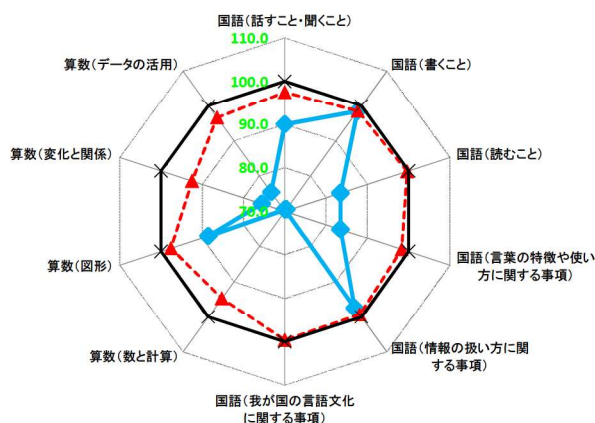
- ◎ 全国学力・学習状況調査及び町独自の学力調査を踏まえた「学力向上推進計画」の組織的な運用と学校種間での交流の実施
- ◎ 主体的に学力の育成に向けたデジタル教科書やICTの利活用、個別最適な学びと協働的な学びを一体として実現する授業改善の推進
- ◎ 教員の資質能力の向上研修会の実施及び支援（教務主任等ミドルリーダー研修会、浜中町初任者研修）

■標茶町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:52人）（中学校数:3校、生徒数:60人）

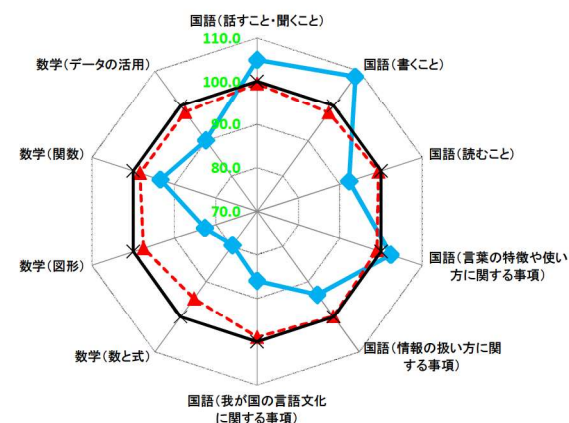
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

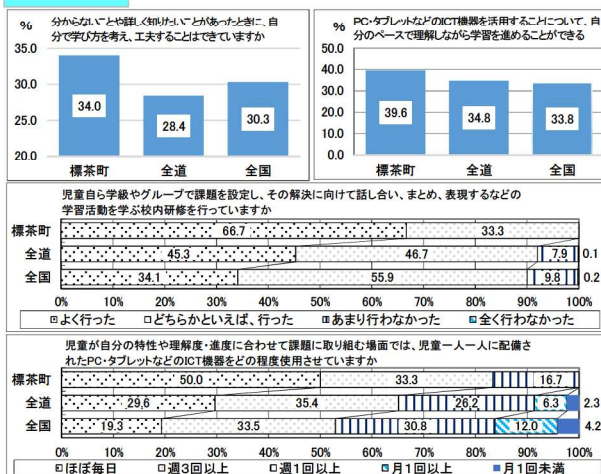


中学校

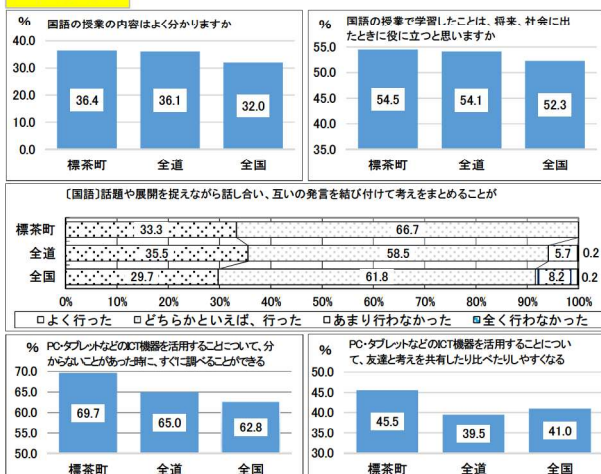


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行ったことにより、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が図られ、分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

教育活動全般にわたり、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用し、児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む授業改善に取り組んだことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

国語の授業において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導を行ったことにより、国語の授業の内容がよく分かる、将来役に立つと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の2領域1事項で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

町主催によるICT活用に係る研修会を実施し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る研究授業を中心に据えた授業改善を推進したことにより、ICT機器を活用することについて、分からないことがあったときに、すぐに調べることができる、友達と考えを共有することができるという回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【標茶町の学力向上策】

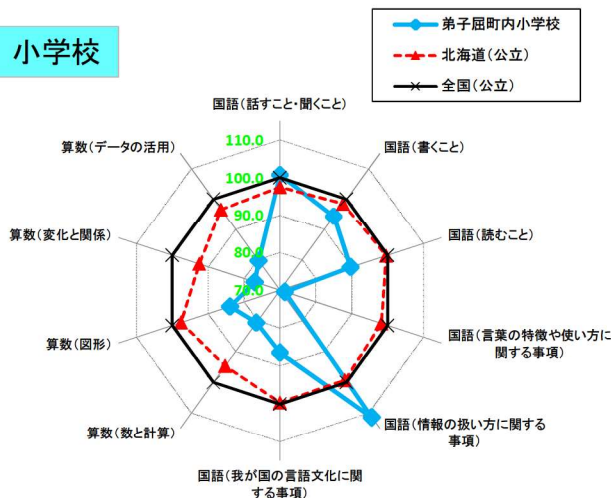
- ◎ 小中連携、小小連携事業を基盤に、学習指導における指導実践の共有及び授業力向上に向けた研究授業の実施
- ◎ 教師のICT活用指導力向上に向けた標茶町教育研究所ICT委員会の開催とコンピュータ会社との連携による研修会及びサポート体制の構築
- ◎ 標茶町学力サポートプラン（CRT標準学力検査・i-check）の実施

■ 弟子屈町内の状況及び学力向上策 （小学校数:3校、児童数:31人）（中学校数:2校、生徒数:25人）

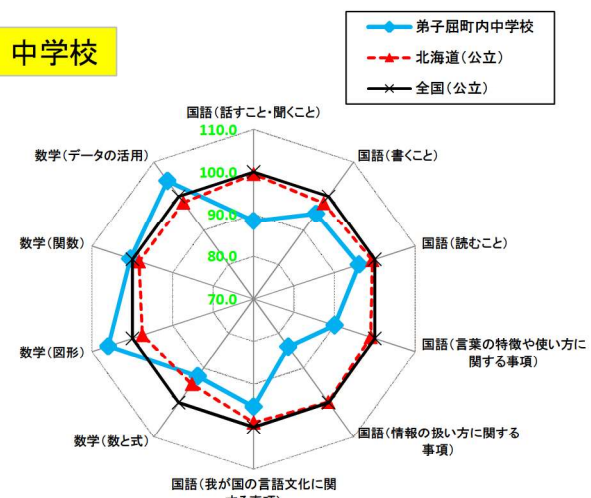
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

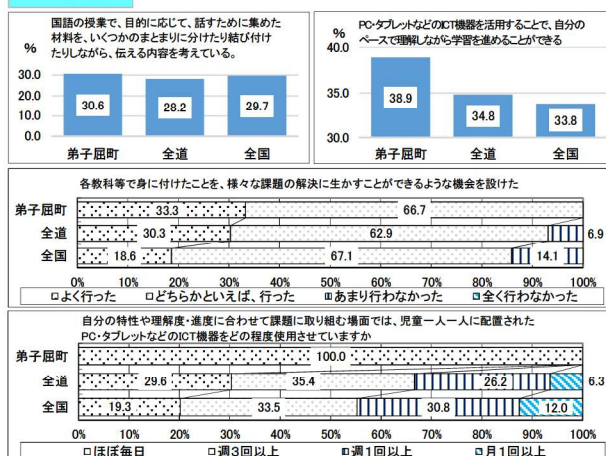


中学校

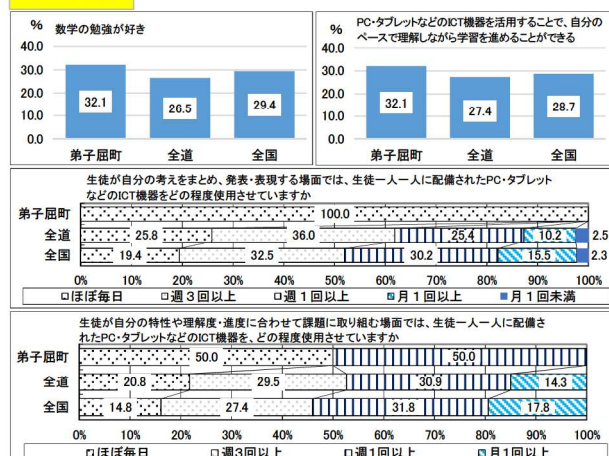


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、国語の授業で、目的に応じて話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の「話すこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る校内研修を通して、児童の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用することにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させるなどの授業改善を推進したことにより、数学の勉強が好きと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る校内研修を通して、生徒の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む1人1台端末等の活用を推進したことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【弟子屈町の学力向上策】

- ◎ 各調査結果を活かした学習指導の工夫改善等、町や各学校の学力向上プランの着実な推進による学力向上サイクルの確立
- ◎ 学校、家庭における、各種調査結果及びメディア利用に係る課題の共有による生活習慣の改善及び学習習慣の確立
- ◎ ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に係る校内研修の推進による教職員の資質能力の向上
- ◎ 町の子ども読書活動推進計画に基づく、関係機関・団体と連携した読書の習慣化に向けた取組の推進

【Webページ】

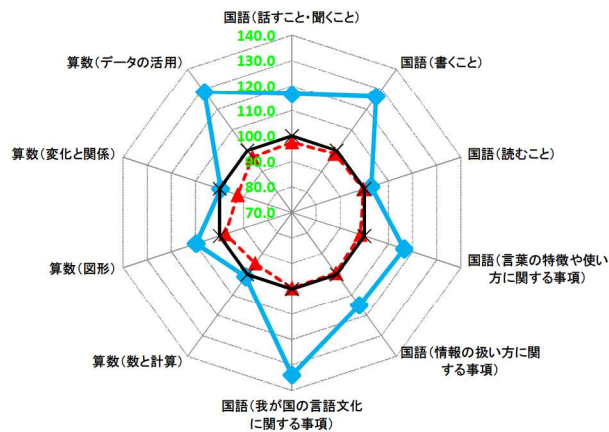


■鶴居村内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:11人）（中学校数:2校、生徒数:23人）

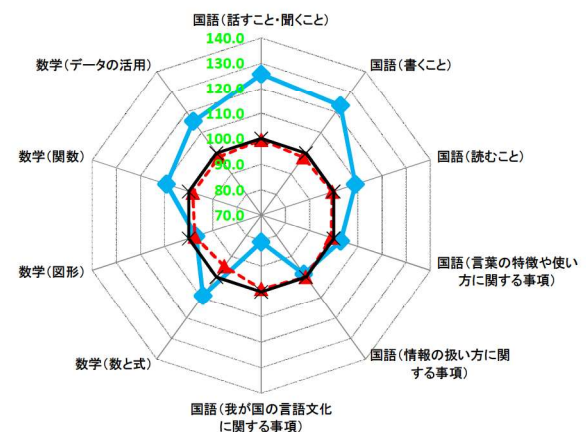
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

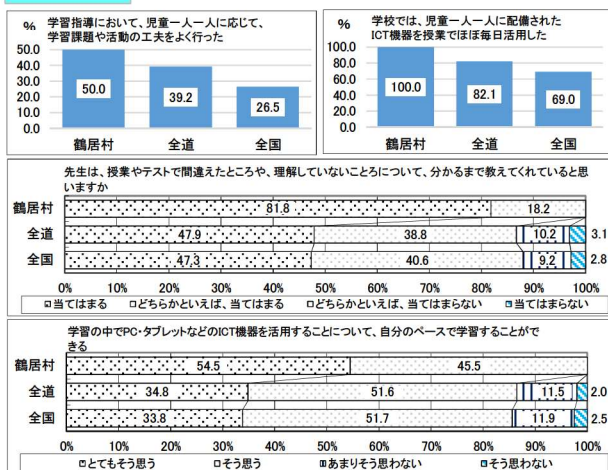


中学校

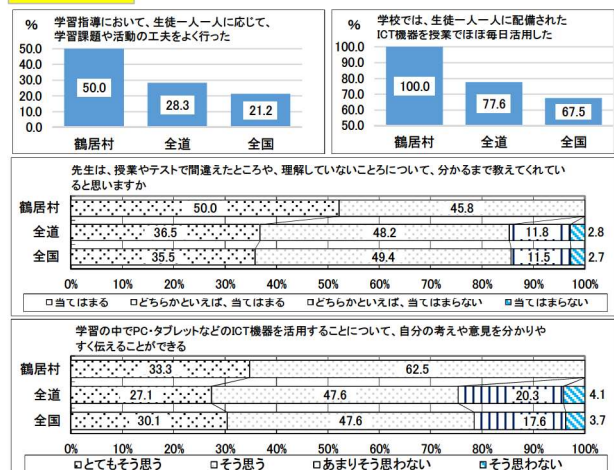


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童一人一人に応じた学習指導の工夫をよく行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答する児童の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域3事項、算数の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末の日常的な活用による授業改善に向けて、児童一人一人に配備されたタブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用させ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ったことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分のペースで理解しながら学習を進めることができると回答した児童の割合が全国及び全道を大きく上回ったと考えられる。

中学校

生徒一人一人に応じた学習指導の工夫をよく行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったとともに、国語の3領域1事項、数学の3領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

1人1台端末の日常的な活用による授業改善に向けて、生徒一人一人に配備されたタブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用させ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ったことにより、学習の中でICT機器を活用することについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【鶴居村の学力向上策】

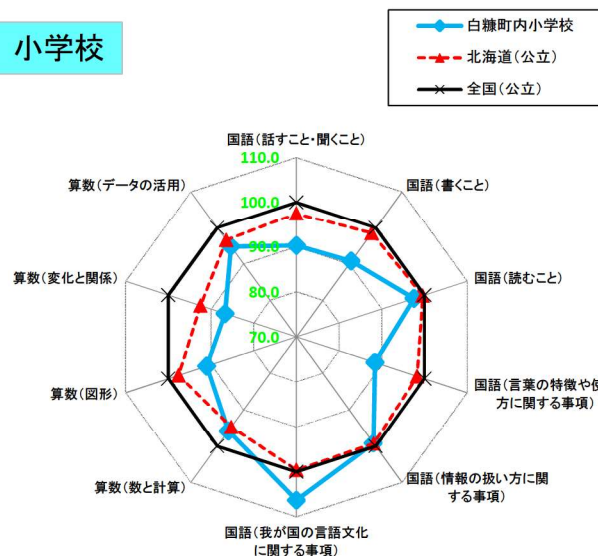
- ◎ 各学校の検証改善サイクルの改善及び教育委員会と学校間との連携を密にした体制による学力向上システムの確立
- ◎ 「授業スタイルの基本型」や「学習規律」の村内全校・全教科における共通理解及び実践の促進
- ◎ 学校の実態や状況に合わせた家庭と連携した学習環境の充実
- ◎ 児童生徒の個々に応じた学習支援や1人1台端末の日常的な活用による授業改善の促進

■白糠町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:29人）（中学校数:3校、生徒数:47人）

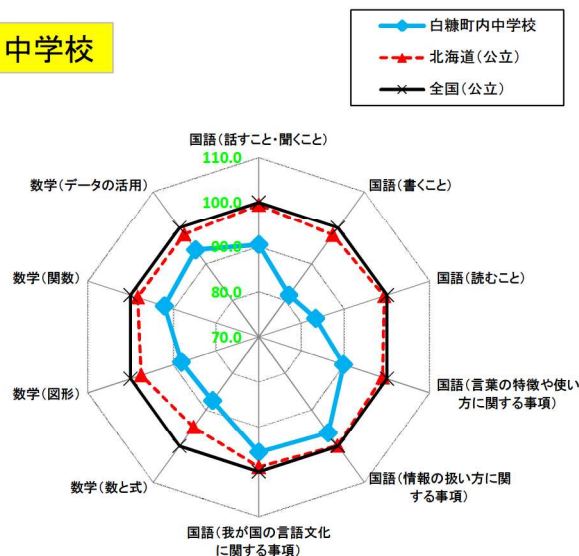
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

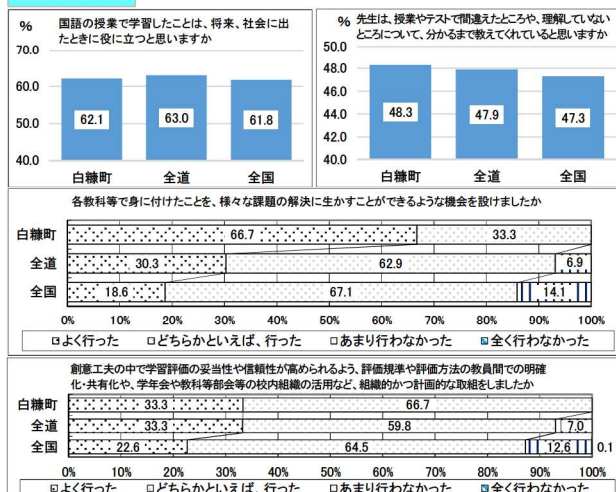


中学校

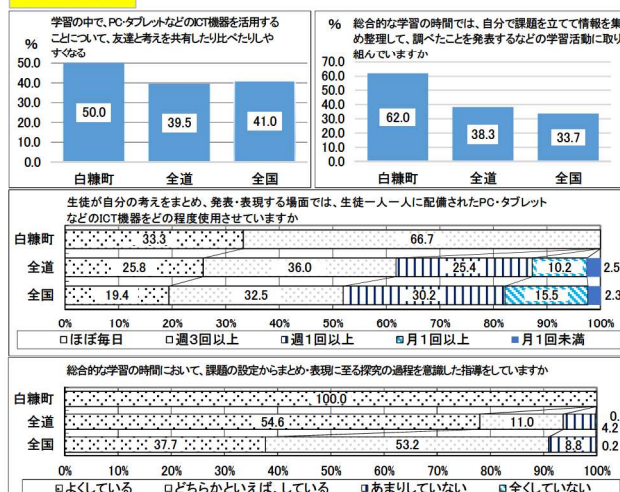


【質問調査の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うと回答した児童の割合が全国を上回ったとともに、国語の「我が国の言語文化に関する事項」で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組を行ったことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を週3回以上活用し、授業改善に取り組んだことにより、PC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、学習の中で友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した組織的な指導を行ったことにより、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【白糠町の学力向上策】

- ◎ 町独自の学力検査や全国学力・学習状況調査を踏まえた指導改善、放課後や長期休業中の学習サポート、TT・少人数指導、習熟度別指導などの指導方法の工夫
- ◎ 小中一貫教育のカリキュラム編成及び研修活動を通した教職員の力量向上
- ◎ 語学力の向上を含めた国際交流・異文化理解の更なる充実を図るための外国語の指導時数の増加、外国語を使用する機会の創出